

研修名 保育士研修 B「はぐくみ」 (障がい児保育研修)

平成 28 年 5 月 25 日 (水) 13:30~16:00

講演 「将来を見すえてつきたい力と保護者支援」

講師 京都文教短期大学 張 貞京 氏



## 1) 子ども理解

### ①発達理解

発達を理解する事が基本であり、手先の操作、姿勢運動、言語、自我、対人のバランスがとれているかが大きなポイントである。保育者は常に知識を磨き発達の重要なポイントを見逃さないことが大切である。

### ②環境理解

経験不足の子どもや保護者が多い。(手先の操作性・物事を考える力・選び取る力) 大人は子どもの考えさせるチャンスを奪わない。可能性を信じる。

### ③教育・保育理解

・昔ながらの変えてはいけない視点+今の時代の変化に合わせた視点の両方が大切

↑  
人と人が関わることの大切さ  
身近な第三者でない大人との信頼関係  
保護者が気付けない子どもの育ちへの客観性  
個別の家庭において体験できない文化体験 (保育所が主となってきている)  
個を主とし集団への意識と必要性を育む(集団が苦手な子どもも誘っていく)

・子どもは心地良い経験 (楽しい・嬉しい) をたくさんする中で力がつく。心地よい経験を感じるからこそ‘不快’さを知ることができる。

## 2) 障害理解

### ①気になる子どもと障害の可能性について

・気になる子どもを理解するためには発達障害の理解が基本である。

(遺伝・多因子遺伝の障害・環境との関わりの手さき・脳の働き等)

成長過程において不適切な環境に置かれ、不適切な経験を繰り返していくと発達障害に限りなく近づいていく場合もある。

※気にならない子も見逃さない。

大人しく手のかからない子もしっかり自己主張ができ、自分のやりたいことを選択できているのか確かめる。他者との経験が不足していることも多い。

・先天的に持っている要素に環境からの不快な体験が繰り返され適応できなくなったら発達障害として理解する。 先天的要因+適応障害=発達障害となる

※保育所の中で適応障害を引き起こさない。‘うまくいくかも’という体験が大切。声のかけ方も将来に希望がもてるよう、否定感を抱かせない様に配慮する。

### ②気になる行動と対応

・多動 全てが動くのは集中している姿。やろうとしている姿を認めていく。

・大人しい 周りの子どもと遊んでいるように見えるが遊べていない場合は要注意。  
家でも保育所でも自己主張ができないようなら対応が必要。

・叱られても響かない 叱られたことは不快感として残る。叱りすぎない。

- ・集団に参加しない 興味を示す事柄はなにか観察把握し参加できない理由を考える。  
集団が基本であることを示し対象児のペースと合わせて進めていく。
- ・相手を挑発する トラブルになるとお互いが不快な思いをする。周りの子に理解を促し対応していく力を身につけていくと保育もスムーズに流れる。

### ③保育上の留意点

- ・対象児の発達を理解する。その子に合った方法で対応できているのか確認する。
  - ・集団生活の中で人と関わることの心地良さを経験できるようにする。自閉症の子どもは人と関わることを拒んでいるわけではなく、関わり方がわからないだけである。
  - ・対象児の年齢に身につけるべき社会性や行動調整を基準に評価しない。これまでと今とを比較する。
  - ・保育士の一言が集団の声になることを留意する。子どもは保育士の姿である。
- ※トラブルが起こった今こそが社会的学習をするチャンス。感覚過敏な自閉症の子どもを集団の刺激から避けるべきといわれているが、成長していく中で集団は避けられない。手段のルールを覚え他者との関わりを学ぶ場所である。

## 3) 保護者理解

### ①コミュニケーションの難しさ

- ・日々のコミュニケーションの中で関係性を作っていくことが大切である。
- ・子どもの発達理解を保護者に促す。(保護者参加の研修会など啓発をしていく)
- ・同じ言葉、表現であっても相手次第である。保育士と保護者が敵にならないように第三者の相談員などうまく使うべきである。受け取り方に差がでてくる。
- ・質問に対して即答できるものとそうでないものを区別する。無理に返答しない。

### ②保護者支援の背景にある難しさ

- ・発達障害なのか、虐待問題があるのか境目がわからなくなっている。
- ・同じような特徴がある親子も増えてきている為、親子の関係性も悪化している。
- ・親子関係を把握する。育てにくさから悪化する場合も多い。上手くいった方法を伝えていく。

※保護者が保育者と共通認識をもつようになるのは今ではない。温度差があり受け入れられないことも多い。いつかわかってくれると願って伝えていく。

### ③就学にむけて

- ・自己肯定感を育て、やりたいことを作る。得意だと思えることを作る。
- ・不得意なことも少しでもできたという経験をもつ。
- ・相手に思いを伝えられるようになる。
- ・落ち着いた時の対応法を気づかせる。

※保護者には保育園で大切にすることを伝え、小学校でも続けられる様にお願いします。

### (感想)

気になる子どもの発達理解や家庭支援の方法など様々な視点から学ぶことができ、身近な内容で興味深いものであった。これからも様々な課題を抱える子どもや保護者達の気持ちに寄り添い、歩み寄っていくことを忘れず課題を共有していきたいと考える。今後も子ども達の成長を共に願い支えていきたい。

(記録 精華町立いけたに保育所 疋田 友梨恵)